

気候情報

2007年1月の日本の天候

気温高い（全国）、降雪が記録的に少ない（北日本、東日本日本海側）

1月の天気概況

強い寒気の南下は一時的で、冬型の気圧配置は長続きしなかった。このため、全国的に高温となり、北陸地方の1月の降雪量は平年比3%と、1961年からの統計で最も少なかった1972年の15%の記録を更新するなど、北日本や北陸以西の日本海側の降雪量は記録的に少なかった。また、降水量も北陸地方で少ない記録を更新した。一方、本州の南海上や南西諸島を低気圧や前線が通過しやすく、太平洋側では天気のがずつく時期があった。

5日に四国の南海上にあった低気圧が、6日から7日にかけて急速に発達しながら東日本から北日本の太平洋側を北上し、その後、一時的に強い冬型の気圧配置となった。この急発達した低気圧や強い冬型の気圧配置により、西日本から北日本にかけては暴風、高波、大雨、北海道のオホーツク海側や太平洋側東部では大雪となり、大きな被害が発生した。

上旬：前半は大陸の高気圧が北日本方面へゆるやかに張り出したため、本州の南海上を低気圧や前線が通過しやすく、日本海側で晴れる日がある一方、太平洋側では曇りや雨の日が多かった。なお、5日に四国の南海上にあった低気圧が、6日から7日にかけて急速に発達しながら東日本から北日本の太平洋側を北上し、その後、一時的に強い冬型の気圧配置となった。この急発達した低気圧や強い冬型の気圧配置により、西日本から北日本にかけては暴風、高波、大雨、北海道のオホーツク海側や太平洋側東部では大雪となり、航空機の欠航、鉄道の運休等の交通障害や住家損壊、住家浸水等が発生した。**旬平均気温**は、全国的に高かった。**旬降水量**は、北日本や東日本太平洋側、南西諸島で多く、東・西日本日本海側で少なく、西日本太平洋側で平年並だった。**旬間日照時間**は北日本や東日本日本海側で多い他は少なかった。

中旬：北日本を中心に冬型の気圧配置が続いたが、強い寒気の南下は一時的だった。このため、日本海側は曇りや雪または雨の日が多かったが降雪量は少なく、太平洋側は晴れの日が多かった。なお、後半は南西諸島で低気圧や前線の影響を受けやすく、曇りや雨の日が多かった。**旬平均気温**は、北日本で平年並の他は高かった。**旬降水量**は、北日本や東・西日本日本海側で少なく、南西諸島で多い他は平年並だった。**旬間日照時間**は、北・東日本日本海側で少なく、西日本で多い他は平年並だった。

下旬：低気圧が短い周期で日本の南海上や北日本付近を通過した。このため、冬型の気圧配置は一時的

で、北・東日本日本海側は曇りや雪の日が少なかった。**旬平均気温**は、南西諸島で平年並の他は高かった。**旬降水量**は、北日本太平洋側と南西諸島で平年並の他は少なかった。**旬間日照時間**は、北日本太平洋側と西日本日本海側で平年並の他は多かった。

1月の気候統計

月平均気温：全国的に高かった。北日本ではかなり高く、北日本の所々では平年を2℃以上上回った。

月降水量：北日本から東日本にかけての日本海側と西日本で少なく、東日本日本海側ではかなり少なかった。一方、北日本太平洋側と南西諸島では多かった。東日本太平洋側では平年並だった。

月間日照時間：北日本の太平洋側では多く、東日本の日本海側ではかなり多かった。そのほかの地域では平年並だった。

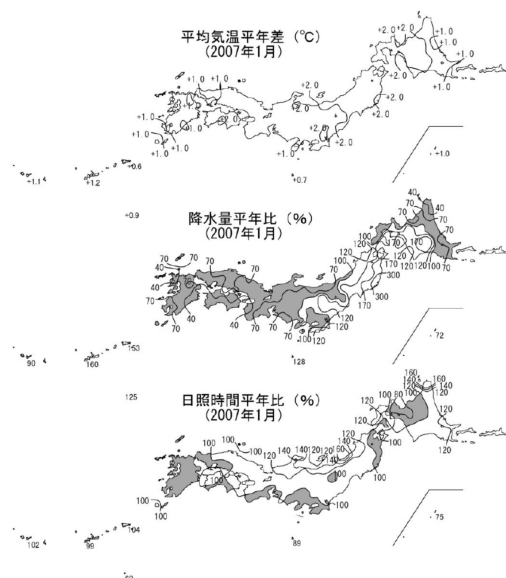
降雪・積雪：降雪の深さ（月合計）、月最深積雪ともに、ほとんどの地点でかなり少なかった。

（気象庁観測部統計室）

1月の記録（1位更新のみ）

- ・月平均気温高い方から（℃）
江差 1.2 秋田 2.7 盛岡 0.6 仙台 3.8
新潟 4.9 神戸 7.5 など11地点
- ・月降水量少ない方から（mm）
稚内 35.0 北見枝幸 34.5 高田 244.5
佐世保 17.0
- ・日照時間多い方から（時間）
稚内 78.8 酒田 66.9

2007年1月の平年差（比）図



注) 陰影の部分は、平年より低い（少ない）地域を示す。